

農業

過去を変えることはできませんが、過去をより深く振り返り、そこからより多くの利益を得て、より良い未来を築くことは確かにできるでしょう。

現代の生活において、村に住んで農業に従事するのは古風なことに思えるかもしれません。しかし、その経験が他の面で私を助けてくれると信じています。

私は 1995 年に広東省梅州で生まれました。2004 年まで、9 歳になるまでそこで暮らしていました。母が私を広州に連れて行き、父と一緒に暮らすようになりました。

2001 年から 2004 年までの 3 年間、私は農業作業に参加しました。種まき、稲刈り、穀物の乾燥などを行いました。

学ぶべきことの一つは、これらの活動が天候や雰囲気大きく依存しているということです。雨が降りそうなときは、乾燥中の穀物を急いで回収し、濡れないようにしなければなりません。

私たちは年に何回、稲を植えて収穫するのでしょうか？Mistral によると、

広東省梅州では、典型的な稲作パターンにより、年に 2 回の収穫が可能です。これは二期作として知られています。稲作の主な季節は以下の通りです：

1. **早稲（早稲）** - 春に種をまき、夏に収穫します。
2. **晩稲（晩稲）** - 夏に種をまき、秋に収穫します。

したがって、梅州では一般的に年に 2 回、稲を植えて収穫します。他に質問やさらに詳しい情報が必要な場合は、遠慮なくお尋ねください！

しかし、実際のところ、私はそれについて確信を持ってません。私が覚えているのは、夏に稲を収穫していたことです。少なくとも年に 1 回は稲を植えて収穫していました。

種まきのとき、田んぼには虫がいました。私たちは機械を使って脱穀しました。太陽、水、空気が稲の成長を助けます。洪水や干ばつは作物を破壊する可能性があります。稲の間隔は重要で、近すぎتهはいけません。

人々は肥料を使いますが、私はその効果について懐疑的です。

農業は人々に忍耐と自然の原理を教えてくれます。

農業はプログラミングとある意味で似ています。ハードウェアは土壌のようで、電気は空気や水のようです。稲の成長はコードの実行のようです。

しかし、農業はプログラミングとはいくつかの点で異なります。主に、稲は人間の介入なしに成長します。同様に、コードがサーバー上で人間の介入なしに実行され、正しく書かれていれば、望ましい結果が得られます。

現在、人々はスマート農業、自動化農業、農業ロボットに取り組んでいます。